

北見工業大学学報

第 279 号 (2017 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨 拶	平成 29 年学長年頭挨拶……………	3
入 試	平成 29 年度編入学試験(第 2 次募集)の実施……………	6
	平成 29 年度推薦入試の実施……………	6
	平成 29 年度大学入試センター試験の実施……………	7
研 究 助 成	平成 28 年度共同研究の受入状況……………	8
	平成 28 年度受託研究の受入状況……………	8
	平成 28 年度奨学寄附金の受入状況……………	8
人 事	人事異動……………	9
受 賞	本学学生が地盤工学会平成 28 年度全国大会に おいて優秀論文発表者賞を受賞……………	10
	社会環境工学科 富山和也助教が土木学会全国大会優秀講演者賞を受賞……………	11
	本学大学院生が土木学会第 71 回全国大会優秀講演者賞を受賞……………	12
	本学教員・学生が 2016 年度 JC-IGS 論文奨励賞を受賞……………	13
	社会環境工学科 富山和也助教が第二十一回舗装工学奨励賞を受賞……………	14
諸 報	SCAN 北海道学生研究会「第 7 回合同研究発表会」での研究発表……………	15
	アグリビジネス創出フェア 2016 に出展……………	16
	「冬休み親子工作教室」を開催……………	17
	小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施……………	18
	人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催……………	19
	JST 新技術説明会での研究成果発表……………	20
	第 28 回ユニバーシアード冬季競技大会出場に伴う壮行会を開催……………	21

	大学院学生を対象とした研究不正防止のための研究倫理教育の実施……………	22
目 誌	12月・1月……………	23

= 年頭挨拶 =

平成29年学長年頭挨拶

あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の4月から始まった第3期中期目標期間は、1年目が残り3ヶ月となり、4月からの平成29年度からは2年目に入ります。平成16年度の法人化以来、各国立大学はそれぞれの強み・特色を最大限に生かしての、教育研究や地域貢献のための機能強化が求められてきております。

本学が進めている機能強化にあたっての改革の一つとしては、平成29年4月の学士課程改組があります。この件につきましては、教職員皆様のご協力をいただきまして、昨年8月に文部科学省に設置報告書を提出し、4月に学生を迎え入れるための準備を進めているところです。改組にかかる業務を短時間で行っていただいた教職員の皆様方には、この場をお借りして感謝を申し上げますとともに今しばらくご協力をいただきたく、重ねてお願い申し上げます。

さて、昨年一年を振り返るとともに、新たな年であります平成29年につきまして、いくつか報告をさせていただきたいと思います。

まず財務関係であります。平成29年度予算につきましては、昨年末に文部科学省から内示がありました。

国立大学全体の予算は法人化以来ずっと減り続けてきたわけですが、次年度は25億円の若干の増となりました。しかしこれは補助金を含む額で、運営費交付金だけで見れば20億円の減と

なっております。国立大学の財政状況が厳しいことに依然変わりはありません。

若干の説明を加えさせていただきますと、昨年から運営費交付金の配分について新たな仕組みが導入され、大学が自由に使える予算が少しずつ吸い上げられ、用途を限定された補助金である機能強化経費に当てられます。この新たな仕組みでは、各大学がそれぞれに設定した「戦略」に対する取組の「目標設定」や「進捗状況」などに基づいて評価されることとなります。そして、その結果は配分額に影響するとともに評価結果が公表されます。すなわち、各大学の取組と評価は公表という形で社会の目に曝されることとなります。機能強化経費そのものの本学全体の予算に対する影響額は、現時点ではそれほど大きなものではありませんが、この機能強化に対してしっかり取り組まないと大学の評価が下がり、そのことは本学を志望する学生の減少にもつながり、結果として大学運営にも大きな影響が出ます。

大学をあげて機能強化の取組を優れたものにしていく必要があることをご理解の上、引き続きましてのご協力を願います。確かに、皆様には引き続きご苦勞をおかけすることになりますが、この取組をしっかりと実施することは本学の魅力をアピールする絶好の機会となります。4月からスタートする新しい学科体制のもと、教職員の皆様のアイデアをいただきながら、さらなる機能強化に努めたいと考えております。

施設整備関係では、機械工学科1号棟の改修工事を平成29年3月から実施することになりました。この改修工事につきましては、これまでの3年間にわたり文科省から財務省への要求には入っていたのですが、そのたびに見送られてきました。昨年10月に成立した平成28年度第2次補正予算にて漸く認められたものです。関係する先生方には、工事のための移転等ご迷惑をおかけすることになります。ご協力をお願いいたします。また、平成29年度予算の内示があり、基幹・環境整備事業として屋外通用階段の防雪アーケードの設置を予定しております。また、昨年12月には正門から第1総合研究棟前の道路整備が完了しました。この整備によりまして、坂道の正門車道にロードヒーティングが設置され、冬期間の安全が確保されたところがあります。

昨年4月にはアスリートの競技力向上に加え、冬季生涯スポーツの定着による地域社会の活性化や住民の健康寿命延伸を目的として、冬季スポーツ科学研究推進センターを設置しました。研究ユニットの活動からセンターとして組織化したもので、カーリング競技やアルペンスキー競技に加え、障害者スキー競技への支援も行うなど、メディアにも広く取り上げられ活動が一層強化されています。

関連しまして、既にご存知のことと思いますが、本学カーリング部男子チームが第28回ユニバーシアード冬季競技大会の選考会で優勝しました。このことにより、今月にカザフスタンのアルマティで開催される大会に日本代表として出場することになりました。この快挙は本学ばかりでなく地域にも元気を与える出来事となっております。先日、チームの表敬訪問を受けた際のお話では、大会参加費用について自己負担が大きいと

のことでありました。チームが試合に全力で集中できるよう、全学を挙げて応援したいとの思いから、教職員の皆様にカンパのお願いをさせていただいたところ、多くの方々にご賛同いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

学務関連では、平成27年度末にA102講義室と第3総合研究棟5階にアクティブラーニング用の教室を整備しました。本学の第3期中期計画の中では、アクティブラーニングを活用した学生参加型の授業を第二期と比較して10%増加させることを定めております。ご担当される科目やゼミの中でこれらの講義室を活用いただける場合には、積極的にご利用ください。

年明け早々とはなりますが、1月14日、15日には大学入試センター試験が実施されます。例年のことですが、大変に気を遣う試験で、監督等に当たっていただく教職員の皆様には何かとご面倒をおかけしますが、どうぞ遺漏のないようよろしくお願い申し上げます。また、3月12日に後期日程試験の個別学力検査が行われます。個別学力検査の学外試験会場としましては、前回と同様に、北見以外では東京と大阪で実施することになっています。こちらにつきましても、多くの教職員の皆様にご協力をいただくこととなります。どうぞ事故等のないよう万全を期していただきますようお願い申し上げます。

情報処理センター演習室を、昨年10月に第1総合研究棟3階へ移転しました。計160台の新たな端末を設置し、学部改組後の講義にも柔軟に対応できる収容力を備えています。また、これまで課題となっていました演習室環境のバリアフリー化、情報処理センターサーバのセキュリティ向上も同時に達成することができました。端末自体のスペックも大幅に向上し、より高度な情報教育・ネット

ワーク環境を学生に提供しております。積極的にご活用願いたいと思います。

本日は時間の都合上、各部局で実施された事業、また実施予定の事業のうちの一部だけを紹介させていただきました。他にも各部局で様々な取り組みが実施されましたし、また実施予定であります。これらの多くにつきましては、別の機会を設けて改めて報告させていただきたいと思います。

こうした様々な取組が進められるのも、すべての教職員の皆様の御支援、御

協力があって可能になっていることであります。この場をお借りしまして心から感謝申し上げる次第であります。

最後になりますが、地方国立大学の本学を取り巻く状況は大変厳しいものであります。その厳しさに負けることなく、教職員の皆様が御家族ともども、この1年間心身ともに健やかに暮らせる年であることを心から祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学長 高橋 信夫



= 入試 =

平成 29 年度編入学試験（第 2 次募集）の実施

（入 試 課）

平成 29 年度編入学試験（第 2 次募集）を実施し、12 月 14 日（水）に合格発表を行いました。各学科別の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	7	0	0	0
社 会 環 境 工 学 科		1	1	1
電 気 電 子 工 学 科		1	1	1
情 報 シ ス テ ム 工 学 科		0	0	0
バ イ オ 環 境 化 学 科		0	0	0
マ テ リ ア ル 工 学 科		0	0	0
合 計		2	2	2

平成 29 年度推薦入試の実施

（入 試 課）

11 月 25 日（金）に平成 29 年度推薦入試を実施し、12 月 14 日（水）に合格発表を行いました。各学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科 ・ コース		募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	エネルギー総合工学コース	48	54	54	47
	環境防災工学コース				
	先端材料物質工学コース				
	地域マネジメント工学コース		2	2	2
地域未来デザイン 工学科	機械知能・生体工学コース	55	95	95	59
	情報デザイン・コミュニケーション工学コース				
	社会インフラ工学コース				
	バイオ食品工学コース				
	地域マネジメント工学コース		1	1	0
合 計		103	152	152	108

平成 29 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 29 年度大学入試センター試験が 1 月 14 日（土）、15 日（日）の両日に実施されました。本学会場の志願者数は 681 人となりました。

= 研究助成 =

平成28年度共同研究の受入状況

平成29年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研究題目	民間機関等
社会環境工学科	教授	早川 博	台風被害に伴う緊急水銀調査研究	北見市
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局 旭川開発建設部
機械工学科	特任助教	楊 亮亮	準天頂衛星を用いた除雪作業車両の運転支援システムの基礎研究	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道

平成28年度累計80件

平成28年度受託研究の受入状況

平成29年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	複数人対話エージェントの評価	アイフォーカス・ネットワーク株式会社	円 300,300

平成28年度累計12件

平成28年度奨学寄附金の受入状況

平成29年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	道路の冬期気象特性に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	円 500,000
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	雪氷状態モニタリング技術開発に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	500,000
機械工学科	助教	吉田 裕	「レーザー誘起欠陥配列の機構解明」AF-2016230	公益財団法人天田財団	770,000
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	補強土壁工とのり面保護工の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	東京インキ株式会社 加工品営業本部	800,000
バイオ環境化学科	特任助教	邱 泰瑛	有用藻類に関する教育研究の奨励助成	株式会社AOB慧央グループ	700,000
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	研究助成	株式会社ノリタケカンパニーリミテド	900,000
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	水力発電所における流氷雪検出技術に関する検討への指導	北海道電力株式会社 企画本部	500,000
電気電子工学科	助教	杉坂 純一郎	工学研究のため	北見工業大学 電気電子工学科	133,704

平成28年度累計53件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
28.12.1	財務課主任	中村 圭吾	総務課主任
〃	総務課事務職員	奥村 由理香	財務課事務職員
29.1.1	研究協力課副課長	斉藤 由紀子	研究協力課高度専門職(研究支援担当) (研究協力課副課長兼務)
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ長	松田 弘喜	技術部高度専門職(機器分析支援担当) (学部・大学院支援室機器分析支援グループ長兼務)

= 受賞 =

本学学生が地盤工学会平成 28 年度全国大会において 優秀論文発表者賞を受賞

(社会環境工学科)

2016 年 9 月 13 日から 15 日に、岡山大学津島キャンパスで開催された地盤工学会平成 28 年度全国大会（第 51 回地盤工学研究発表会）において、宋白楊さん（博士後期課程 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 2 年・寒地岩盤工学研究室）、川内谷勇真さん（博士前期課程 社会環境工学専攻 1 年・寒地岩盤工学研究室）、佐藤貴亮さん（博士前期課程 社会環境工学専攻 1 年・地盤工学研究室）の 3 名が優秀論文発表者賞を受賞いたしました。

地盤工学研究発表会は、公益社団法人地盤工学会が開催している学術講演会です。

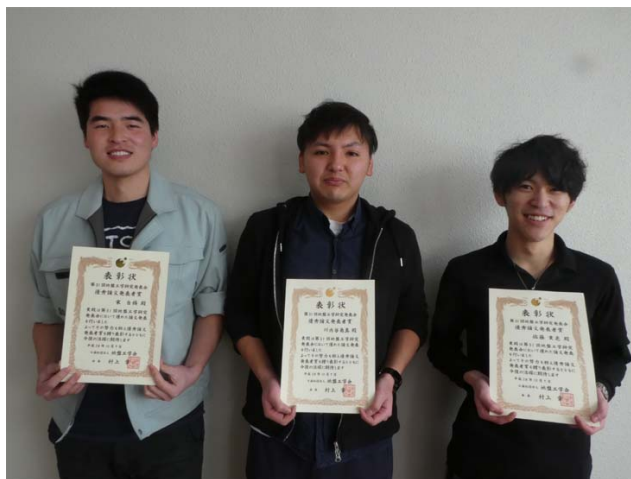
「地盤工学会優秀論文発表者賞」は、今後の地盤工学分野を担う若手技術者及び若手研究者の活性化、研究意欲の向上を目的として設立された賞で、地盤工学研究発表会において「地盤工学会の発展に貢献しうる優秀な論文を適切に口頭発表した」と認められた 35 歳以下の技術者及び研究者に贈られます。総発表件数 1,120 件、審査対象は 525 件で、受賞者の総数は 130 名でした。

発表者及び発表タイトルは以下の通りです。

宋 白楊： X 線 CT スキャンを用いた土の凍上過程の詳細な内部観察

川内谷勇真：凍結融解履歴を受けた草本植物の根系を含む細粒土の一面せん断試験

佐藤貴亮：浸透流による鉛直方向飽和度分布と細粒分変化に関する実験的研究



写真左から宋さん、川内谷さん、佐藤さん

社会環境工学科 富山和也助教が 土木学会全国大会優秀講演者賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科の富山和也助教が、公益社団法人土木学会 平成 28 年度全国大会第 71 回年次学術講演会において優秀講演者賞を受賞しました。この賞は今後の発展が期待される研究発表を行った若手研究者・技術者に贈られるものです。

本講演会において、富山助教らは独立行政法人日本学術振興会からの助成（科学研究費助成事業 若手研究 (B)）により実施している「生体疲労計測に基づく時間依存性を考慮した合理的な走行路面評価手法の開発」で得られた研究成果について発表しま

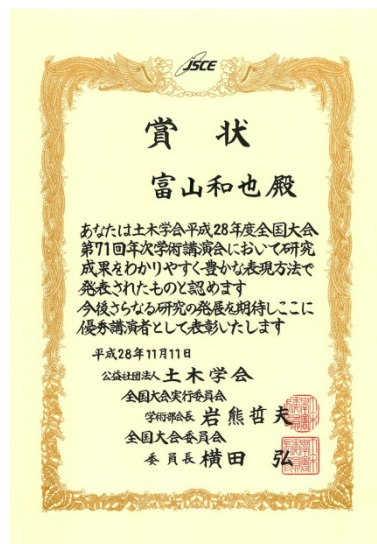
した。

本研究は本学所有の路面評価型ドライビングシミュレータによる走行試験を実施し、路面由来の精神疲労評価における生体情報を活用した心拍変動指標の有効性とその時間依存性について検証しています。

本研究成果は、道路走行時の精神的負担を把握することでドライバの疲労軽減や交通事故低減につながるとともに、道路利用者の視点を取り入れた質的満足度の高い道路整備への貢献が期待されるものです。

発表題目

富山和也，川村 彰：路面由来の精神疲労評価における心拍変動指標の有効性と時間依存性の検証，土木学会第 71 回年次学術講演会（宮城県仙台市），5-095，2016 年 9 月。



土木学会全国大会優秀講演者賞

本学大学院生が土木学会第71回全国大会優秀講演者賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、本学大学院博士前期課程社会環境工学専攻2年の佐野史弥さん（水処理工学研究室所属、指導教員：駒井克昭准教授）が、公益社団法人土木学会 平成28年度全国大会第71回年次学術講演会において優秀講演者賞を受賞しました。

この賞は、今後の発展が期待される研究発表を行った若手研究者・技術者に贈られるものです。本講演会において、佐野さんは「阿寒湖におけるマリモ球状化に影響を与える風の将来予測」という題目で発表しました。

阿寒湖に生息するマリモは、湖上に吹く強い南風によって回転運動を行いながら光合成を行うことで1つの球体を形成します。

このような球状のマリモは世界でも阿寒湖にしか存在していないことから、国の特別天然記念物に指定されています。しかし近年、局所豪雨の増加といった地球規模での環境変動が懸念されており、全球気候モデルのデータの統計解析によってマリモの回転運動に必要な不可欠な風が将来どのように変化するかを明らかにしました。佐野さんらの研究の結果、阿寒湖に吹く強い南風の発生回数は、将来多くなることが明らかになりました。

マリモの生態を含めた環境変化には未解明な部分が多いことから、マリモの保護に向けて今後のさらなる研究の発展が期待されます。

発表題目

佐野史弥，中山恵介，山田俊郎，佐藤之信，丸谷靖幸，駒井克昭，尾山洋一，若菜勇：阿寒湖におけるマリモに影響を与える風の将来予測，土木学会第71回年次学術講演会（宮城県仙台市），CS5-011，2016年9月．



土木学会全国大会優秀講演者賞

本学教員・学生が2016年度JC-IGS論文奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

本学大学院の卒業生である佐々木貴さんと社会環境工学科の川尻峻三助教が国際ジオシンセティックス学会日本支部より2016年度JC-IGS論文奨励賞を受賞しました。

JC-IGS論文奨励賞は2014年と2015年のジオシンセティックス論文集に掲載された論文の中から、ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者(満35歳未満)に授与されるものであり、2016年12月に福井県で開催された第31回ジオシンセティックスシンポジウムで表彰式が行

われました。

受賞した論文タイトルは「ベントナイト系遮水シートと土の摩擦抵抗に関する実験的検討」であり、ため池などで使用され始めているベントナイト系遮水シートと土の摩擦特性を本学にある一面せん断試験装置を用いて詳細に検討したものです。得られた成果はベントナイト系遮水シートを用いた改修堤体の豪雨や地震時における安定性評価にとって貴重な情報であり、実施した数多くの精緻な試験が高く評価されたものです。



左から国際ジオシンセティックス学会
日本支部支部長 三木様、佐々木さん、川尻助教

社会環境工学科 富山和也助教が 第二十一回舗装工学奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科の富山和也助教が、公益社団法人土木学会 舗装工学委員会より第二十一回舗装工学奨励賞を受賞しました。

同委員会では1996年以降、年1回舗装工学講演会を開催し、同時に土木学会論文集E1(舗装工学)を発刊しています。舗装工学奨励賞はその中から40歳未満の若手研究者を対象に、優れた研究成果に対して授与されるものです。

富山助教は「平坦性評価に要する低速プロファイルの測定精度とその検証に関する視点と方法」について発表し、その成果が認められての受賞となりました。

本研究は本学と株式会社高速道路総合技術研究所および国立研究開発法人土木研究所との共同研究の一環として実施したものです。

富山助教らは本研究で、舗装路面の凹凸(プロファイル)を測定するための装置(プ

ロファイル)の測定精度検証における視点と方法をまとめ、舗装の施工管理においてプロファイルに求められる測定精度を示しました。

近年、道路整備の質的向上に対する社会的要求が高まる中、多種多様なプロファイルが開発・運用されており、プロファイルの測定および測定結果に基づく定量的な評価は舗装を適切に管理する上で極めて重要な要素となっております。特に、今後の舗装路面の管理では施工直後の状態のみならず、供用後に一定の品質を満足すること(性能評価)が求められます。舗装の維持更新時代における適切な路面診断や、性能評価の重要性を考えると、路面調査を目的とした装置に対する測定精度の保証は極めて重要となります。本研究成果はこうした社会的要求に応えるとともに、舗装工学における学術的な貢献が評価され受賞に至りました。

受賞論文

富山和也, 川村 彰, 江口利幸, 寺田 剛, 渡邊一弘: 平坦性評価に要する低速プロファイルの測定精度とその検証に関する視点と方法, 土木学会論文集 E1(舗装工学), Vol. 72, No. 3, pp. I_27-I_35, 2016年12月.



授賞式にて挨拶をする富山助教



舗装工学奨励賞

= 諸報 =

SCAN 北海道学生研究会「第7回合同研究発表会」での研究発表

(社会連携推進センター)

12月10日(土)第7回SCAN合同研究発表会が釧路公立大学を会場に開催され、本学からは社会連携推進センターの研究室に配属しているマネジメント工学コース4年次の学生5人が参加・発表を行いました。

SCAN (Sophisticated Community and Academics for Networking) 北海道学生研究会は、2010年6月に釧路公立大学の学生が主体となり大学のゼミの一環として立ち上げられた研究会です。この研究会では、毎年テーマを掲げ、そのテーマに沿った研究報告が行われる合同研究発表会を開催しています。

本学はこの合同研究発表会に第3回から参加しています。今年度は「スポーツと生きる地域」「地域」の2テーマでの研究報告の募集が行われ、釧路公立大学、札幌学院

大学、札幌大学、北翔大学、北海学園大学、北海道教育大学旭川校、北海道教育大学釧路校、北海道メディカルスポーツ専門学校、本学の9校が参加し、全19件の研究発表が行われました。

本学の学生は、取り組んでいる卒業研究から構成される2つのテーマ「大学生がもたらす地域経済への影響」「地域貢献につながる産学官連携に向け大学がすべきこと～北見工業大学を例に～」について報告しました。

学生たちにとってSCANへの参加・発表は、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、マネジメント工学コースが目指すマネジメント力を身につけるための学外での貴重な経験の機会となりました。



会場の様子



研究発表を行うマネジメント工学コース4年次の学生

アグリビジネス創出フェア 2016 に出展

(社会連携推進センター)

12月14日(水)～16日(金)の3日間、東京ビッグサイトを会場に「アグリビジネス創出フェア 2016」が開催されました。

本フェアは、全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、産業界とのマッチング、研究機関や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催し、本学は平成19年度より継続して出展しています。

今年度は、機械工学科星野洋平准教授の「ブームスプレーヤ(農薬散布等に用いられる機械)の高速化・作業効率向上のためのアタッチメント式高性能除振装置」と、平成18年度から実施している「工農教育事業」について展示・紹介を行いました。

星野准教授の研究紹介ではパネル展示だけでなく、セミナールームでのプレゼンテーションも行いました。

出展大学の多くが農業・バイオ系となる中での本学の出展は、他大学・研究機関や食品、繊維、環境など幅広い分野の関係者に興味をいただき、出展ブースやセミナールームに多くの来場がありました。

本イベントへの参加は、農林水産業の支援・発展への工学の貢献について知っていただく貴重な場にもなっています。本学は第1次産業を主産業とする地域に位置する大学として、第1次産業への工学の役割の強化も進めており、今後も本フェアへの継続的な出展を考えています。



本学ブースの様子



プレゼンテーションを行う星野准教授

「冬休み親子工作教室」を開催

(技術部)

平成29年1月6日（金）、7日（土）の両日「冬休み親子工作教室」を開催しました。この工作教室は工作を通してものづくりの楽しさ、工作機械や工具の使い方を体験してもらうことを目的としています。

平成23年度から始まり今回で6回目の開催となりました。2テーマが新しくなり定員を大幅に超える申込がありましたが、抽選の結果47組の参加となりました。

子供たちは「ガラス彫刻」「ソーラーブランコ」「自分だけの宝箱」「ラジオ製作」の中から希望のテーマを選び、熱心に製作に取り組み、作品が完成するととても満足

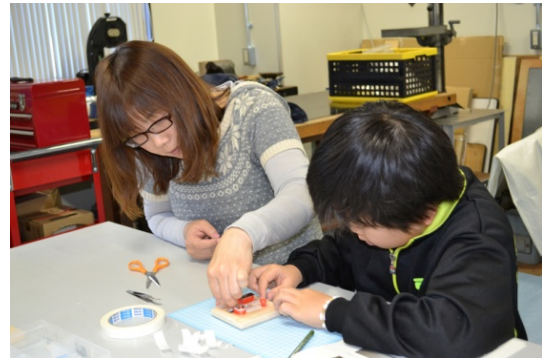
そうでした。

実施後の児童を対象にしたアンケートでは、全員が工作は「とても楽しかった」または「楽しかった」と答えていました。保護者を対象としたアンケートでは、参加して「とても良かったと思う」が98%の集計結果となり好評のうちに終わることができました。

関係者各位の尽力で、今回も事故や怪我もなく無事終了することができました。今後もこの事業を継続して開催して行きたいと考えています。



ガラス彫刻の製作



ソーラーブランコの製作



自分だけの宝箱の製作



ラジオの製作

小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施

(研究協力課)

1月10日(火)小中学校教諭を対象とした理科実験研修を本学物理実験室及び化学学生実験室において実施しました。この研修は、本学と北見市教育委員会が平成23年8月に締結した連携協定に基づく取り組みの一つで、昨年度に引き続き公益社団法人応用物理学会(リフレッシュ理科教室事業)との共催で実施しました。

研修では本学技術部の百武欣二環境安全支援グループ長他5人を講師として、物理コースと化学コースに分かれ、物理コースでは①手回し発電機の出力に関する実験、②手回し発電機の手ごたえに関する実験、③モータと発電機に関する実験を行い、化

学コースでは①水の電気分解に関する実験、②電気分解装置、③電解質水溶液の電気分解、④塩化銅の廃液処理について実験を行いました。

当日は小中学校教諭15人が参加し、研修実施後のアンケートでは「手回し発電機やダイオードなど、実際の授業で使うものが題材だったため、すぐに活用できるもので良かった。」「実験器具の比較がとても参考になりました。実験装置を学校で購入するのにどれが良いのか選ぶ基準ができました。」「塩化銅水溶液の廃棄処理方法を知ることができたのが良かった。」等の声が寄せられました。



物理コースの実験



化学コースの実験

人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催

(社会連携推進センター)

1月11日(水)～16日(月)の6日間、コミュニティプラザパラゴ(北見)を会場に、人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語(大学からの発信こだわりのあるおいしいもの販売!!)」を開催しました。

本イベントは毎年、北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で高知物産展と同時開催しています。

今回は長崎大学、東京農業大学、帯広畜産大学、本学の4大学と、オホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加しました。会場では、各大学が取り組む商品開発の成果発表として、開発した商品の試食やプレゼンテーションを行いました。またパネル展示では上記の4大学の他に鹿児島大学、高知大学、愛媛大学、豊橋技術科学大学がそれぞれ研究紹介を行いました。

本学は農業地帯にある工業大学という利点を活かし取り組んでいる、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエイター育成事業の成果を報告しました。初日には長崎大学水産学部の菅向志郎准教授と、東京農業大学生物生産学部の菅原優准教授による講演会と情報交換会が行われ、大学間の交流を深める場となりました。

本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを多くの方々に理解していただく良い機会となりました。また参加大学・機関にとっても「食と健康」「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となりました。



吉田理事による挨拶



受講生のプレゼンテーション



販売会の様子

JST 新技術説明会での研究成果発表

(社会連携推進センター)

1月19日(木)、26日(木)の両日、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と北海道大学 産学・地域協働推進機構が、道内の大学・公的研究機関の研究を紹介する新技術説明会をJST東京本部別館1Fホールにて開催しました。

本説明会は、大学等の公的研究機関から創出された研究成果に基づく特許技術に焦点をあて、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向けて、大学や公的研究機関等の研究者が研究成果について説明し、成果の実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場です。

1月19日(木)の「ナノテク・材料・物づくり系」をテーマとした説明会には、大学関係者、産学官連携支援機関、産業界から200人近い来場があり、本学からはマテリアル工学科の大野智也准教授が「ナノ粒子表面への複合酸化物材料のナノコーティ

ング技術」と題した研究の成果を説明し、1月26日(木)の「ライフサイエンス系」をテーマとした説明会には、バイオ環境化学科の小西正朗准教授が「新規酢酸耐性菌を用いたリグノセルロース系バイオマスからのエタノール生産」と題し、研究の成果を説明しました。

両日も、プレゼンテーションの後には研究の成果に興味を持つ企業の方々と各先生方との個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われました。

新技術説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成の機会であり、また今後の研究・産学官連携の発展に向けた有意義な広報・情報交換の機会でもあります。今後も積極的な参加・発表を継続していきたいと考えています。



新技術説明会会場



プレゼンテーション後の名刺交換

第28回ユニバーシアード冬季競技大会出場に伴う壮行会を開催

(学務課)

1月20日(金)学内コミュニケーションアトリウムにおいて、第28回ユニバーシアード冬季競技大会出場に伴う壮行会を実施しました。

本壮行会は出場選手であるカーリング部の学生の活躍を願い、士気高揚を図ることを目的として実施したもので、教職員・学生等100人余りが参加しました。最初に高橋信夫学長及びKITげんき会の永田正記会長(北見商工会議所会頭)からの挨拶があり「日本代表として、また地域の期待を背負い大いに健闘し、良い結果に繋げてほしい」とエールが送られました。続いて、同カー

リング部で急遽結成されたチアリーディングチームから激励のダンスパフォーマンスがあり、出場選手各人へ激励の言葉と花束の贈呈がありました。最後に、各選手からの挨拶があり、平田滉介さんは「各国の代表が集まる本大会は非常にレベルが高く、また出場するチームも格上ばかりであるが、練習の成果を活かして存分に活躍し、良い結果に繋げたい」と意気込みを語りました。

なお、ユニバーシアード冬季大会におけるカーリング競技は1月30日(月)からカザフスタンのアルマティにて開催され、各国代表総勢10チームが参加します。



壮行会の様子

大学院学生を対象とした研究不正防止のための研究倫理教育の実施

(学 務 課)

1月27日(金)第1総合研究棟多目的講義室で大学院学生を対象とした「研究不正防止のための研究倫理教育」を開催しました。

これは文部科学大臣決定として新たに「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が策定されたことに伴い、教職員だけでなく学生に対しても研究倫理教育の実施について推進されていることにより開催したものです。

本学の不正防止対策室長でもある川村彰副学長が講師を担当し「専門職たる研究者は一般人より大きな責任を負い、高い倫理観を持つ必要がある」という基本的な心得を皮切りに、研究不正の実例や論文作成時における研究データの保存に関する留意点などを説明しました。

出席した97名の大学院生たちは講演を通じて研究倫理の重要性を再認識しました。



研究倫理について説明する川村副学長



会場の様子

= 日誌 =

12 月

- 2日 就職ガイダンス
- 5日 社会連携推進機構統括会議、内定者のための労働法と税のセミナー、入試企画センター運営会議、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 社会連携推進センター運営会議、研究推進機構統括会議
- 7日 入試企画センター運営会議
- 8日 教務委員会、学生委員会
- 13日 地域連携・国際交流委員会、就職支援室会議、入学者選抜委員会
- 14日 教授会、研究科委員会、推薦入試合格発表、編入学（第2次募集）合格発表
- 15日 教育研究評議会
- 16日 経営協議会、役員会、学長選考会議
- 19日 研究推進機構統括会議
- 20日 発明審査委員会
- 21日 教務委員会
- 27日 障がい学生支援室会議

1 月

- 5日 入試企画センター運営会議
- 6日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 10日 社会連携推進センター運営会議
- 11日 教務委員会
- 12日 研究推進機構統括会議
- 14日 大学入試センター試験（～15日）
- 16日 推薦入試入学手続（～20日）、私費外国人留学生入試出願受付（～20日）、大学院入試出願受付（～20日）
- 18日 教育研究評議会
- 20日 就職ガイダンス、FD講演会、学術情報機構統括会議
- 23日 一般入試出願受付（～2月1日）
- 25日 発達障害等を抱える学生の就労支援セミナー
- 28日 高大連携事業「数学補習講座」（～29日）
- 30日 教務委員会
- 31日 研究推進機構統括会議、人を対象とする研究倫理審査委員会、学生委員会